

日中対照研究方法論（３）

— “V + O + 給・N” 表現をめぐる日中対照（下） —

A Methodology for a Contrastive Study in Japanese and Chinese（３）
: The “V + O + *gei*・N” Forms in Chinese and Their Corresponding
Expressions in Japanese (Part 2)

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

概 要

「日中対照研究方法論（３）— “V + O + 給・N” 表現をめぐる日中対照（上）—」を参照。

キーワード

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1 受給／受益 | benefactive |
| 2 動詞／前置詞 | verb/preposition |
| 3 方向性 | direction |
| 4 待遇表現 | hearer-oriented language use |
| 5 接辞／補助動詞 | affix/auxiliary verb |

目 次

- 1 “V + O + 給・N” 表現についての従来の記述
- 2 “V + O + 給・N” 表現の構造分析
 - 2.1 “V + O + 給・N” 表現の両義性
 - 2.2 “V + 給・N + O” 表現との相違
 - 2.3 “給・N + V + O” 表現との相違
- 3 日本語との対応関係
 - 3.1 “V + O + 給・N” に対応する日本語表現
 - 3.2 “V + 給・N + O” に対応する日本語表現
 - 3.3 “給・N + V + O” に対応する日本語表現
- 4 おわりに

3 日本語との対応関係

3.1 “V + O + 給・N” に対応する日本語表現

2.1、2.3 で述べたように、“V + O + 給・N” は連動式としての性格が極めて強い形式である。一方、対応する日本語表現と比較した場合には、中国語の類義形式と比較した場合には気づかなかった “V + O + 給・N” 表現の特徴がうきぼりとなると予測される。対照研究を行なう場合には、日中両言語の対応例を最初からとり上げて進めるという手法が考え

られるほか、本稿のように、中国語におけるいくつかの類義形式の使い分けを明らかにしてから日本語との対照作業に入るという手法もある。いずれがふさわしいかはあつかうテーマにもよる⁴³⁾が、試行錯誤を繰り返す中で考察のよりよい手順を模索していくよりほかはない。本稿では、“V + O + 給・N” と “V + 給・N + O”、“給・N + V + O” との使い分けについての検討を行なった上で日本語との対照作業に入る方が有効であると判断した。

連動式としての性格が強い “V + O + 給・N” と

比較すべき日本語の表現形式の一つとしては、「～テ～スル」が挙げられよう。周知のように、連動式とは一つの主体によるいくつかの動作を表わす形式であり、この点においては日本語の「～テ～スル」形式が構造上は最も近いと考えられるためである⁴⁴⁾。これまでに挙げた“V+O+給・N”表現の中にも、「～テ～スル」形式の日本語表現が対応する

(同上)

(7) 我买书给他。／私は本を買ッテ彼にアゲル。

(8) 你沏杯茶给我。

／君はお茶を一杯イレテ私に下サイ。

(13) 写信给你 手紙を書イテ君に送ル

(26)' 我借钱给他。／私は金を借リテ彼に与エル。

(30) 织了一件毛衣给他

／セーターを1枚編ンデ彼にヤッタ

(37) 我买书给了他。

／私は本を買ッテ彼にアゲタ。

(38) 我以前买书给过他。

／私は以前本を買ッテ彼にアゲタことがある。

(39) 我买了书也不给他。

／私は本を買ッテも彼にアゲナイ。

(40)' 我买了书没给他。

／私は本を買ッタが(買ッテ)、彼にアゲナカッタ。(張勤 1998:107 を一部修正)

のような例がみられる⁴⁵⁾。但し、常に「～テ～スル」表現が対応するわけではなく、

(5) 我买一本书给你。／君ニ本を買ッテアゲル。

(6) 他买书给我。

／彼はわたしにニ本を買ッテクレル。

(41) 张三买一本书给李四。

／張三は李四ニ本を買ッテヤル。

(42) 张三买书给李四

／張三は李四ニ本を買ッテヤル

あるいは

(78) 你沏杯茶给我。

／君はわたしニ一杯のお茶をいれテ下サイ。

(朱德熙著/松村・杉村訳 1988:196)

(79) 你打件毛衣给我。

／君は私ニ一枚のセーターを編ンデ下サイ。

のような「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」表現が対応するケースも存在する⁴⁶⁾。1で述べたように、(5)の中国語表現は佐々木 2006:181 が「モノの受取手としての受給者」を導く例であるとする表現であり、(6)の中国語表現は(7)、(7)'と同様の解釈が可能と思われる表現、(41)の中国語表現は2.1で述べたように盧濤 1993:64、同 2000:188 が両義性を有するとする表現である。また、(42)の中国語表現も、同 2000:184 が

(42)' 張三は本を買ッテ李四にヤル。

(盧濤 2000:184)

(42)" 張三は李四ニ本を買ッテヤル。(同上)

の両者を対応させていることから、(41)と同様の両義性を有するものであると考えられる。“V+O+給・N”表現が両義性を有する場合はともかく、受給を表わすとされる(5)のような場合にまで「N・ニ Oを Vテアゲル」表現を対応させるケースからは、“V+O+給・N”表現における“給”の働きを日本語に反映させることの難しさがうかがわれるが、これは、「テアゲル」から動詞の意味を無意識に読みとったことに起因するのではなかろうか。『研究社 日本語教育事典(「意味役割」の項)』が、

(80) 太郎が花子ニ本をあげた。

(『研究社 日本語教育事典』「意味役割」の項)

における「花子」は「本」の移動の着点(goal)となるが、動詞「あげる」の語彙的意味から、「花子」を受益者(benefactive)と分析することもあるとしていることから、「テアゲル(テヤル)／テクレル」が表わす受給、受益の明確な線引きの難しさがうかがわれよう。

『日本語教育事典(「補助動詞」の項)』は、補助動詞となり得る動詞が他の動詞の「～て」の形の後に付けて用いられていても、

(81) 彼はここへ自転車に乗って来た。

(『日本語教育事典』「補助動詞」の項)

(82) ふろしきをたたんで(ポケットに)しまう。

(同上)

(83) 商品を机の上に並べて置く。(同上)

(84) 暗いから明かりをつけて**見る**。(同上)

のように本来の意味を保っている場合は補助動詞⁴⁷⁾とはいわれなかった上で、補助動詞として働く例として

(85) お父さんがぼくニプラモデルを買**ッテ**クレタ。(同上)

(86) 分からなければ教え**テ**アゲよう。(同上)

などを挙げている。一方、井出・任 2001:43 が

(87) おじさんが飴を買**ッテ**クレタ。
(井出・任 2001:43)

の「**〜テクレタ**」や

(88) 死**ンデ**ヤル (同上)

の「**〜デヤル**」に相当する補助動詞としての授受表現は、物や行為の行き来だけでなく、一般に動作主格である与え手と受け手の間を繋ぐ相手への恩恵や迷惑の気持ちを表わすとしていることから、「**テアゲル(テヤル)／テクレル**」がモノの授受を表わす働きをとどめているとみる姿勢がうかがわれる。このような見方が自然であることは、『日本語文法事典（「補助動詞」の項）』が、「**テ形動詞＋本動詞**」という接続は

(89) 歯を磨いて寝る
(『日本語文法事典』『補助動詞』の項)

のように前項と後項の時間的關係が継起的な場合と

(90) 君がピアノを弾いて僕がバイオリンを弾く
(同上)

のように同時的な場合があり、これを反映して、補助動詞になって概念的意味を失った後もこの二つの時間關係がともに保持されている場合が多いとしていることによっても理解できよう。上記のような姿勢で「**買ッテアゲル(テヤル)／テクレル**」をみた場合、「**売ッテアゲル(テヤル)／テクレル**」に比べると「**アゲル(ヤル)／クレル**」の動詞的性格が強い、すなわち「**Vテアゲル(テヤル)／テクレル**」表現に

非授与動詞、授与動詞のいずれが用いられるかによって「**アゲル(ヤル)／クレル**」の動詞としての性格の強さに差異が存在するとみることも可能ではなかろうか。

一方、

(85)' お父さんがプラモデルを買**ッテ**ぼくにクレタ。

のように、「**〜テ**」との間に相手を表わす成分が置かれた場合の「**アゲル(ヤル)／クレル**」が純然たる動詞であることは明白であり、表現全体は二つの出来事を表わすこととなる。これまでに挙げた連動式としての“V+O+給・N”表現に対しては、おおむねこの形式をとる日本語表現が対応している。「買う」は「取得」という意味特徴を有する動詞であるが、この点は「借りる」も同様であり、

(26) ” 私は金を借**リテ**彼に与**エル**(アゲル)。
(太田 1956:196 を一部修正)

のような表現が成立する。また、「制作」という意味特徴を有する動詞を用いた

(8) 君はお茶を一杯**イレテ**私に下サイ。
(13) 手紙を**書イテ**君に**送ル**
(30) セーターを1枚**編ンデ**彼に**ヤッタ**

の場合も同じく二つの出来事を表わす表現として成立する。これに対し、「授与」という意味特徴を有する動詞を用いた

(91) ***売ッテ**かれに**アゲル**
(92) ***教エテ**君に**アゲル**
(93) ***貸シテ**私に**クレル**
(94) ***送ッテ**私に**クレル**

が非文となるのは、動詞と「**アゲル(ヤル)／クレル**」の方向性が一致しており、授与そのものを表わす「贈る」を用いた

(95) *本を一冊**贈ッテ**かれに**アゲル**。
(興水 1985:424 を一部修正)

の場合と同じく意味上の重複が生じていることによ

ると考えられる。

「アゲル(ヤル)/クレル」と動詞との間にみられる上記のような関係を、“V+O+給・N”表現における“給”とVとの関係、同表現の両義性の問題と比較することによって、両言語間における受益表現の性格の相違について何らかの新しい知見が得られる可能性があるのではなかろうか。2.2 で述べたように、“V+O+給・N”表現の中には一つの出来事を表わすケース、二つの出来事を表わすケース、いずれを表わすことも可能なケースがあるが、これらの相違を「アゲル(ヤル)/クレル」が動詞としての性格をどの程度強くともめているかの相違と比較し、“給”や「アゲル(ヤル)/クレル」と動詞の空間的方向性との関わりについて分析を行なってみる価値はあろう。

また、本稿でとり上げた中国語諸形式の間には“給”の動詞としての性格の強弱が存在するが、このような強弱の差異を、日本語の「アゲル(ヤル)/クレル」が純然たる動詞として働く場合、補助動詞として働く場合、両者の働きを兼ね備えている場合の相違と比較することは、受給形式、受益形式が両言語でそれぞれどのように使い分けられているかを探ることにもつながると考えられる。楊凱榮 2009:3 が、「そもそも授与と受益は密接に関係しており、必ずしも明確に区別できるものではない」、「授与と受益の連続性は、中国語でも日本語でも受益標識がもともと授与を表す動詞から拡張してきたという事実からも見てとれる」とする一方、「一般的な状況の下ではものの提供を受けた人物は抽象的な意味での受益者と見なされやすい」としているように、モノの授受と利益の授受とは明確に分かちがたい関係にある。このため、“V+O+給・N”表現における“給”、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」表現における「アゲル(ヤル)/クレル」についても、モノの授与、受益のいずれを表わしているかの判断が難しいケースは少なくないと思われ、このことは、2.1 で挙げた(41)、(43)のような多義表現や、同じく“V+O+給・N”形式をとる表現に対して「～テ～スル」表現、「N・ニ Oを Vテヤル」表現の双方を対応させた(42)、(42)’、(42)”、さらには

のような対応例にもあらわれている。

以上のような“V+O+給・N”と「～テ～スル」、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」との対照作業を通して、それぞれが受給、受益をどのように表現し分けているかの相違を探ることにより、先行研究では明らかにされていない各形式の働きのより厳密な記述も可能となるのではなかろうか。連動式として働くことが可能であり、かつ、「～テ～スル」形式の日本語表現と対応するケースもある“V+O+給・N”に比べると、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」の方が受益を表わす形式としての完成度が高いことは容易に推測されるが、この点も含めた詳細な検討が必要である。これらの考察においては、受益を表わす「テアゲル(テヤル)/テクレル」が「待遇表現」とされていることとの整合性を保つように注意しなければならない⁴⁹⁾。日本語における受益標識の「テアゲル(テヤル)/テクレル」は待遇表現であり、例えば

- (96) 我卖了他一辆汽车。／僕は彼に車を売ってヤッタ。(佐々木 1994:322)
 (97) 我教他汉语了。／僕は彼に中国語を教えたヤッタ。(同上)
 (98) 陈东平老师教我们口语。／陳東平先生は私たちに口語を教えたテクレル。
 (『中国語学概論』:162)

のような、“給”を含まない中国語表現に対応する日本語表現にあられるケースもあるためである⁴⁹⁾。「テアゲル(テヤル)/テクレル」において「アゲル(ヤル)/クレル」が純然たる動詞として働くケースも含めて考察を行なう本稿のような手法をとれば、純然たる待遇表現の形式として働いているものとそうでないものをいかにあつかい分けるかの問題も生じてくると予測される。

“V+O+給・N”に対応する日本語の表現形式としては、「～テ～スル」、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」のほか、さらに「N・ニ Oを Vする」があり、例えば以下のような対応例が存在する。

- (6) 他买书给我。
 ／彼はわたしに本を買ってテクレル。
 (7) 我买书给他。
 ／私は本を買って彼にアゲル。
 (11) 张三寄一封信给李四。
 ／張三は李四に手紙を一通出した。
 (29) 送一本书给他／彼二本を1冊やる
 (45)’ 张三送一本书给李四。

／張三は李四ニ本を1冊やった(送る)。

(盧濤 2000:63、184)

(68) 我还給他。／僕は彼ニお金を返す。

(69) 我要送这本书給他。

／私はこの本を彼ニ贈る(つもりだ)。

(71) 我要送一本書給小明，不是(給)小华。

／私は一冊の本を小明ニあげたい、小華ではない。

(72) 我要送这一本书給一位专门研究语义与语用的朋友。

／私はこの本を一人の意味論と語用論を専門に研究している友人ニ贈る。

(99) 他借书給我。／彼はわたしニ本を貸す。

(張勤 1998: 111、113、115、118、120)

「N・ニ Oを Vする」は一つの出来事を表わし、かつ、受益の意味を含まない形式である。同表現が表わすコトガラにおいては、動作がNへの方向性を有することとなるため、授与動詞を用いた場合には自然な表現として成立するのに対し、取得動詞や制作動詞を用いた場合には許容度が劣る傾向にある⁵⁰⁾。このため、「N・ニ Oを Vする」との間に対応関係を有する“V+O+給・N”表現が連動式である可能性は高くないと考えられるが、2.1 で挙げた(41)、(43)のような多義表現が存在することや、両言語の統語構造が常に一致するとは限らないことを考え合わせれば、皆無であると即断することは避けた方がよさそうである。連動式としての“V+O+給・N”表現に「N・ニ Oを Vする」表現が対応するケースが仮に存在するとしたら、それは表現構造の相違⁵¹⁾、すなわち、同一のコトガラが、中国語では“V+O+給・N”形式の連動式により二つの出来事として表わされるのに対し、日本語では「N・ニ Oを Vする」形式により一つの出来事として表わされるということであり、統語構造のレベルを超えている。また、2.1 で述べたように“V+O+給・N”表現が非連動式である場合には受益表現とされるが、対応する「N・ニ Oを Vする」表現には受益の意味が含まれていない。このような場合には、“給”はいわゆる格標識「ニ」に対応しているとみるほかに、先行研究や辞書の記述にみられるこのような対応例は、例えば“給”の用法を説明するための例文と、それに対して便宜上つけられた日本語訳文という関係にあるという側面が否定できず、“V+O+給・N”、「N・ニ Oを Vする」の特徴

を正確に反映しているとは限らないのではなかろうか(同様のことは「～テ～スル」、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」との対応例についてもあてはまる)。さらに、2.2 で述べたように、“V+O+給・N”表現の中には情報構造や談話における適格性によって“V+給・N+O”表現との間に使い分けがみられるケースがある。このようなケースについては、両者を比較しながら「N・ニ Oを Vする」表現との対応関係をみていく必要があるだろう。“V+O+給・N”表現、「N・ニ Oを Vする」表現の対応関係は、“V+給・N+O”表現、「N・ニ Oを Vする」表現の対応関係との間に何らかのつながりを有することが予測されるが、この点については3.2 で述べることとする。

ところで、“V+O+給・N”表現の中にはVが“-了”、“-过”をとまなうものがあり、このような表現に対して「N・ニ Oを Vする」表現が対応する

(100) 他寄了一个包裹給老张。

／彼は小包を一個張さんニ郵送した。

(朱德熙 1980 a :154、朱德熙著／松村・杉村訳 1988:199)

(101) 以前我寄过一封信給她。

／以前私は彼女ニ一通の手紙を出したことがある。(張勤 1998:124)

のようなケースが存在する。

“給”が“-了”、“-过”をとまなう(37)、(38)の場合には“V+O+給・N”表現が連動式、対応する日本語表現が「～テ～スル」形式であったのに対し、(100)、(101)の場合には“V+O+給・N”表現が非連動式であることが対応する日本語表現からもみてとれる。一方、

(43) 他写了一封信給我。

は、2.1 で述べたように多義性を有し、連動式、非連動式の境界線上に位置する表現である。“V了／过+O+給・N”表現は連動式として用いられる傾向が弱いのであろうか。とりわけ、“V了+O+給・N”という形式からは、時間の経過に沿って動作が「V+O → 給・N」の順に行なわれることを表わす可能性が予測されるのであるが、この点については“V了／过+O+給・N”形式をとる表現に数多くあたって傾向を確かめる必要がある。“-了”、“-过”

のような成分が“給”、Vのいずれに後置されるかによって“V+O+給・N”表現の構造が異なる、すなわち連動式か非連動式かに分かれるという現象が一定の傾向としてみられるものなのか、あるいは個々の具体的な場面や文脈によって異なる程度のものなのかについて考察を行なうことは、同形式の特徴の根幹部分に迫ることではなかろうか。その場合には、Vが“给予”という意味特徴を有するか否か、あるいはVが取得、制作、授与いずれの意味特徴を有するかという点にも目配りをし、これらが“-了”、“-过”の位置から生じる相違に影響しているかどうかを見極める必要がある。たとえ、上記の現象が一定の傾向としてみられなくても、“V+O+给了/过+N”表現、“V了/过+O+給・N”表現がそれぞれ「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」、「N・ニ Oを Vする」のいずれの表現と対応関係をもちやすいかについて検討を加えておく必要はあると思われる。これにより、“V了/过+O+給・N”表現における“給”が受益を含意する程度は“V+O+给了/过+N”表現の場合と比較して強いかわ弱いかわということが明確となる可能性があるからである。

以上のように、“V+O+給・N”と「～テ～スル」、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」、「N・ニ Oを Vする」との対応には、“V+O+給・N”表現が二つの出来事を表わす連動式、一つの出来事を表わす受益表現のいずれとして用いられているか、“-了”、“-过”のような成分がV、“給”のいずれに後置されるか、日本語との間に表現構造の相違が存在するか否か、情報構造や談話における適格性がどのようなものであるか、さらには“給”の用法について説明するための例文に対して便宜上つけられた日本語訳文との対応例であるか否かなど、いくつかの要因が関わっていると考えられる。“V+O+給・N”表現に対して上記のいずれの日本語表現が対応するかについては、“V+O+給・N”、“V+給・N+O”のいずれが選択されるかの場合と同様に、複数の要因が関わっているケースも少なくないと推察され、いずれが主たる要因となっているかは、個別の対応例についての詳細な検討を行なう過程で次第に明らかとなつてこよう。

3.2 “V+給・N+O”に対応する日本語表現

2.2 で述べたように“V+給・N+O”表現が表わす出来事は一つであるため、二つの出来事を表わ

す「～テ～スル」形式をとる日本語表現との対応関係は、両言語間に表現構造の相違が存在しない限り成立しないこととなる。また、“V+給・N+O”表現においてはV、“給”の空間的方向性が一致していなければならない、それが一致しない場合には自然な表現として成立しない傾向がある点において“V+O+給・N”表現とは異なる。

V、“給”の空間的方向性が鮮明な形で“V+給・N+O”表現の内容に反映されるのは、“借”を用いたケースである。周知のように、“借”は

(102) 张三借了李四十块钱。

(張三は李四から十円借りた。／張三は李四に十円貸した。)(アン・Y・ハシモト著／中川・木村訳 1986:28)

のように「借りる／貸す」のいずれを表わすことも可能であるのに対し、“借給”は

(102)’ 张三借给了李四十块钱。

(張三は李四に十円貸した。)(同上)

のように「貸す」を表わすにとどまる⁵²⁾。ちなみに、“V+O+給・N”形式をとる

(26)’ 我借钱给他。(私は金を借りて彼に与える。)

の場合には“借钱”、“给他”が別個の出来事として表現され、“借”が「借りる」を表わしていることは日本語訳からみてとれるものの、一方では

(99) 他借书给我。(彼はわたしに本を貸す。)

のような表現例もみられ、“V+O+給・N”表現における“借”が常に「借りる」を表わすとも限らないようである⁵³⁾。

“V給”は、これを一語と認定するか否かは別にしても、2.2 で紹介したように“給”を主要動詞とする見方がなされる成分、すなわち「手段・方法+動作」という意味分析がなされる成分であることから、“給”が「与える」という語彙的意味を濃厚にとどめているということは明白であり、この点は、Vと“給”の空間的方向性が一致していなければならないことと表裏一体をなしている。一方、日本語の

「Vテアゲル(テヤル)/テクレル」の場合には、“V給”の場合のような空間的方向性の一致は要求されず、

- (103) 買ったテアゲル(テヤル)/テクレル
(104) 借りテアゲル(テヤル)/テクレル

のような表現が成立する⁵⁴⁾。このことから、“V+O+給・N”形式と比較した場合と同様に、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」は“V+給・N+O”よりも受益を表わす形式としての完成度が高く、「アゲル(ヤル)/クレル」は“給”よりも補助動詞としての性格が強い(=動詞としての性格が弱い)ということがみてとれよう。「テアゲル(テヤル)/テクレル」のようないわゆる補助動詞は、『日本語教育事典(「補助動詞」の項)』が、3.1で紹介した(81)～(84)および(85)～(86)などについての記述を行なう一方で、「本来の意味を保っているか否かが、本動詞か補助動詞かを分けるのであるから、場合によっては微妙な場合もあり得る。補助動詞論は更に研究されなければならない」としているように、いわゆる本動詞との間に連続性を有し、この点についてはさらなる考察の余地がありそうであるが、“V給”における“給”と比較した場合には、「アゲル(ヤル)/クレル」の動詞としての性格が相対的に弱いこととなり、その分だけ受益を表わす働きが際立つこととなる。受益を表わす働きの強さにおいて“給”は「アゲル(ヤル)/クレル」におよばないものの、その働きが皆無というわけではない⁵⁵⁾。このことは、郭春貴 2001:370 が、動補構造における“給”は「…してあげる」という意味を表わすとしていることや、“V+給・N+O”表現に対して「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」表現が対応する

- (3) 我寄给你一本书。/君ニ本を郵送しテアゲル。
(4) 他寄给我一封信。
/彼は私ニ手紙を(送っテ)クレタ。

- (51) 这个戒指就是买给你的。
/この指輪はあなたニ買ったテアゲタものだ。
(52) 他买给我书。
/彼はわたしニ本を買ったテクレル。

- (105) 那辆车已经卖给他了。

/あの車は既に彼ニ売ったテアゲタ。
(郭春貴 2001:372、405)

- (106) 这是他卖给我的。
/これは彼が売ったテクレタのだ。
(同上:371)

- (107) 这本书借给你。/この本を貸しテアゲル。
(『岩波 日中辞典』「あげる」の項)
(108) 他借给我五块钱。
/彼は私ニ5元かしテクレル。
(荒川 1985:16)

のようなケースが数多く存在することによっても理解できよう。“V給”における“給”について、盧濤 1993:62、同 2000:180、182-183、199 は「接辞化されたもの」としている。この見方は、“給”が動詞に後置されて日本語の補助動詞のように受益を表わす働きをすることからなされたものと推察され、“給”をいわゆる付属形式(bound form)とみる点において 2.2で紹介したような“給”を主要動詞とする考え方とは正反対であるため、いずれが説得力をもつかについての検証が必要であるとも考えられるが、同じく“V給”形式をとる成分であっても授与を表わす場合には意味的な比重が“給”に置かれるのに対し、受益を表わす場合には意味的な比重がVに置かれると考えることはできないであろうか⁵⁶⁾。このような考え方は、同じく授与を表わす“V給”形式の成分であっても、“卖给”、“寄给”では“給”の働きに相違がみられる、すなわち後者における“寄”と“給”は“两个分离的过程”であるのに対し前者における“卖”と“给”はそうではないとする袁明军 1997:183 の記述における姿勢に通じるものであって、言語現象を連続体としてとらえ、より詳細かつ厳密に記述しようとするものであり、これにより、2.2で紹介した中川 1978:4 と盧濤の上記の記述との矛盾もなくなる可能性がある。“V給”形式をとる成分の中には、V、“給”のいずれに比重が置かれているかの判断が容易でないケースが存在する可能性もあるが、これらも含めた個別の具体例から一定の傾向に収束させていくよりほかはない。

“V+給・N+O”表現における“給”に含意される受益の意味について調べる方法の一つとしては、“給”が任意の成分である

- (45) 张三送(给)李四一本书。

- (70) 我要送(给)小明一本书, 不是一支钢笔。
 (108) 他借(给)我五块钱。
 (109) 还(给)他一本书 (かれに本を一冊返す)
 (《漢日辞典》“給”の項)
 (110) 我卖(给)你一所房子。(沈家煊 1999:99)
 (111) 你递(给)我一枝笔。
 (君は私に一本の筆を手渡す。)
 (朱德熙 1980 a:167、朱德熙著／松村・杉村訳 1988:215)

などのようなケースについて、“給”が受益の意味をどの程度含んでいるかという観点から検討を加えることが挙げられよう。従来は、“V 給”における“給”が任意であるのはVが「与える」という意味特徴を有する場合であり、そうでない場合は“給”が不可欠であるとされてきた⁵⁷⁾。この点は中国語動詞の項の数の相違にも関わるきわめて興味深い問題であり、楊凱榮 1994:24-25、林立梅 2002:319-321、杉村 2006:69 などにおいてふれられている。太田 1956:184 には、“給”が不可欠である場合には、非授与動詞によっては動作の方向が予想されないため“給”によって動作の加えられる方向を示す必要がある旨の記述がみられるが、任意である場合には、“給”の働きをそれ以外の要因に求める必要がある。杉村 2006:69、71、72-73 が、このような場合には“給”付加の理由を意味論的要因に求めざるを得ないとして動詞が授与動詞としての性質を強化する必要があることを挙げ、このことが丁寧さの強化につながっているとしているほか、同:89-90 の記述にみられるように方言的な要因が関わるケースも存在するようである。また、同 2001:66、同 2006:72 は、“送”や“还”のような『授与型』の動詞にとって“給”の付加が『任意的』であると言われるのは構文上(しかもごく一部の構文上)の話であって意味的にも任意的であるとは言えず、選択のあるところには相違があるとして“送给”が“送”に比べて丁寧さの点でまさる(なければぞんざいと感じられる)例を挙げている⁵⁸⁾。“V 給”においてその付加が任意である“給”は、杉村の指摘する「丁寧さ」を表わす働きにとどまらず、言語現象の常としていくつかの働きを合わせもつとみるのが自然であろう。このような姿勢は、“給”の付加による丁寧度の獲得についての同 2006:72-73 の「単音節が複音節になったことによると単純に片づけることも可能であるかもしれないが、“給”の付加に伴う授与義の強化、授与義の強化に伴う受領者

の前掲化にあると考えたい」という記述からもうかがわれる。

上記の表現例をはじめとする“給”が任意であるケースにおいては、“給”の有無によってどのような相違がみられるかについて検討を行なうことにより、“V + 給・N + O”表現における“給”が従来から指摘されている以外にどのような働きをしているかが見えてこよう。これを出発点として、“V 給”において“給”の使用が義務的であるケースをも含めて検討を行なっていけば、“V + 給・N + O”表現における“給”が受益を含意する程度が授与動詞と非授与動詞によってどのように異なるかを明らかにすることにつながると考えられる。

ところで、“V + O + 給・N”表現の場合と同様に、“V + 給・N + O”表現に対しても「N・ニ O を V する」形式をとる日本語表現が対応するケースがあり、

- (10) 他寄给我一包糖。
 ／彼はあめを一包み私ニ送った。
 (26) 我借给他钱。／私は彼ニ金を貸す。
 (44) 张三寄给李四一封信。
 ／張三は李四ニ手紙を一通出した。
 (45) 张三送(给)李四一本书。
 ／張三は李四ニ本を一冊贈った。
 (57) 昨天我寄给了她一封信。
 ／昨日わたしは彼女ニ手紙を一通出した。
 (59) 我推荐给他一名英语教师。
 ／私は彼ニ英語の教師を一名推薦する。
 (64) 这本书快还给他吧。
 ／この本ははやく彼ニ返しなさい。
 (68) 我还给他钱。／僕は彼ニお金を返す。
 (69) 我要送给他这本书。
 ／私は彼ニこの本を贈る。
 (70) 我要送(给)小明一本书, 不是一支钢笔。
 ／私は小明ニ一冊の本をあげたい、一本の万年筆ではない。
 (109) 还(给)他一本书／かれニ本を一冊返す
 (111) 你递(给)我一枝笔。
 ／君は私ニ一本の筆を手渡す。
 (112) 她送给我巧克力。
 ／彼女は私ニチョコレートくれた。
 (『中国語虚詞類義語用例辞典』“给 替 为”の項)
 (113) 我借给你一辆自行车吧。

／自転車を君ニ一台貸そう。
(張勤 1998:96)

- (114) 我打給老师一个电话。
／わたしは先生ニ電話をかけた。(同上)
- (115) 大娘卖给他们一箱冰棍。
／おばあさんはかれらニ一箱のアイスクリーマーを売った。(同上:97)
- (116) 她还给图书馆几本书。
／彼女は図書館ニ本を何冊か返した。
(同上)
- (117) 这首诗是他写给他情人的。
／この詩は彼が恋人ニ書いたものだ。
(郭春貴 2001:372、405)

のような対応例がみられる。このような対応関係が成立する要因としてまず考えられるのは、一語とみなされるほど“V給”の一体性が強い点である。“V給”の部分の一つの動詞とみて日本語動詞に置き換えれば、「N・ニ Oを Vする」形式の日本語表現が対応することとなるのは自然である。このことは、(4)において“寄給”に相当する日本語の部分が「(送っテ)クレタ」と表示されていることにもあらわれているのではなかろうか。また、「テアゲル(テヤル)／テクレル」は3.1で述べたように待遇表現であり、この成分の有無によって表現の前提となる客観的事実に相違がみられるわけではないのに対し、“V+給・N+O”における“給・N”は表現全体が表わすコトガラ成立に不可欠の成分であり、“給”は受給あるいは受益を表わすという語彙的な働きを有すると同時に、Nが表わす事物を示すという文法的な働きをも有している。後者の働きは日本語では格助詞「ニ」によってになわることが可能であるため、この点も“V+給・N+O”表現と「N・ニ Oを Vする」表現との対応関係が成立する一因となっている。“V+給・N+O”表現と「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」表現、「N・ニ Oを Vする」表現との対応は固定的なものではなく、“給”が有する上記の二つの働きのいずれに比重を置いて日本語に置き換えるかによって「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」表現、「N・ニ Oを Vする」表現のいずれを対応させるかが決まると推測される。これらの対応関係を比較するとともに、“V+給・N+O”表現において“給”が任意であるケースと不可欠であるケースとの相違、任意である場合における“給”の有無による相違をも視野におさ

めて考察をすすめていけば、“V+給・N+O”と“V+(給・)N+O”、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」と「N・ニ Oを Vする」がそれぞれの言語においてどのように使い分けられているかの相違を明らかにすることができよう。

ちなみに、3.1では、“V+給・N+O”表現、「N・ニ Oを Vする」表現の対応関係と“V+O+給・N”表現、「N・ニ Oを Vする」表現の対応関係との間に何らかのつながりがあるのではないかと予測したが、この予測は、“V+O+給・N”表現の中には情報構造や談話における適格性によって“V+給・N+O”表現との間に使い分けがみられるケースが存在することがヒントとなっている。前述したように、“V+O+給・N”表現においては“給・N”の部分が新情報であり重い要素ということとなるが、この場合の“給”は、受給・受益を表わす働きよりはNが表わす事物を示す働きの方に比重がかかっており、このことが「N・ニ Oを Vする」表現との対応関係成立の直接的な要因となっているのではなかろうか。この点については一考の価値があるように思われる。

3.3 “給・N+V+O”に対応する日本語表現

2.2、2.3で述べたように、「V+O→給・N」のような時間的方向性を有する“V+O+給・N”表現や、“V給”が「動作の過程→結果」のような時間的方向性を有するとともにV、“給”の空間的方向性が一致していることが要求される“V+給・N+O”表現とは異なり、“給・N+V+O”表現の場合には、上記のような時間的あるいは空間的方向性を見いだすことができない。このことは、朱德熙 1980 a:159-160、同 1980 b:186、同 1982:171-172、張伯江 1999:177に、「与える」という意味特徴を有する動詞の大部分が“給・N+V+O”表現に用いられず、用いられるのは主として非授与動詞である旨の記述がみられることや、2.3で挙げた

- (77) 我给他买一辆车。

のような、「替わりに…してあげる」を表わすことが可能なケースによっても明白であり、“給・N+V+O”形式の多義表現が生じる一因となっていると推察される⁵⁹⁾。また、“給・N+V+O”表現における“給・N”は述語の中心成分ではなく“V+O”の連用修飾成分すなわち従属的成分とされ

るのが一般的であり⁶⁰⁾、同表現が表わす出来事は一つである。このため、3.2 で述べた“V+給・N+O”表現の場合と同様に、“給・N+V+O”表現と「～テ～スル」形式をとる日本語表現との対応関係は、両言語間に表現構造の相違が存在しない限り成立しないこととなる。“給・N+V+O”表現が有するこれらの特徴は、

(118) 我给你介绍一本书。

(君に本を紹介してあげる。)

(佐々木 2006:181)

(119) 我给你送家里去。

((あなたのために)お家まで持っていこう。)

(盧濤 2000:191、《茶馆》)

のような純然たる受益表現にその典型をみることができる⁶¹⁾。(118)、(119)における“給”は、“介绍一本书”、“送家里去”という動作による利益が向かう先を示しているが、この方向性は純然たる空間的なものではなく、より抽象的な非空間的性格を帯びているということができよう。このことは、佐々木 2006:181 が(118)における“給”の働きについて、「一定の文法化を遂げた前置詞として、利益の受け手としての受益者を導いている」としていることや、太田 1956:189 が

(120) 我给你写信。

(君の代りに手紙を書く。／君に対して手紙を書く。)(太田 1956:189)

について、『僕が手紙を書くということ』を君にあたえる——という意味、つまり、僕が君のために手紙を書くという意味にすぎない。であるから誰にあてた手紙をかいいてもよいのである」としていることにあらわれており、2.3 で紹介した沈家煊 1999:98 の記述(“表示预定的目标”)とも矛盾せず、“給”が授与の意味を帯びることを否定するものでもない。木村 2000:32 が“給”の前置詞用法はいずれも授与動詞の“給”、すなわち『(人にモノを)与える』という意味の動詞から発展したもので、多かれ少なかれ<授与>の意味を引きずっています」としていることや、2.3 で述べたような使役を表わすケースからも理解できるように、動詞としての意味をとどめていることも少なくないのである。反面、荒川 1985:15-16 の記述にみられるように、“給・N+V

+O”表現の中には“給”の「利益を与える」という面が後退して単に動作の相手、向かい先という側面が強くなっているケースも存在し、前置詞“給”の語彙的意味に強弱の差異がみられるのも事実である⁶²⁾。時間的あるいは空間的方向性を見いだすことができない点において、“給・N+V+O”表現は“替／为・N+V+O”表現などと同様であり、“給”はNが表わす事物に向けての非空間的な方向性、換言すれば心理的方向性を帯びているとみるのが妥当であろう⁶³⁾。

このように、“給・N+V+O”は「具象物の授与」よりは「抽象物(利益)の授与=受益」を表わす働きの方に比重が置かれた形式であり、(77)が“买车给他”を表わすケースや、木村 2000:32 が

(121) 给他送报纸(彼に新聞を届ける)

(木村 2000:32)

における“給”の働きを「<与エル>という意味を語彙的に含みもつ類の動詞といっしょに用いてモノを与える相手を導く用法」としているケースのように、表現の前提となる客観的事実において具象物の授与をともなっていたとしても⁶⁴⁾、それは同形式によって表現可能なコトガラの一部であるにすぎず、“V+O+给・N”、“V+给・N+O”の場合よりも広い範囲の受益を表わすのである⁶⁵⁾。このことは、取得動詞を用いた

(1) 我给他买了一本书。

(私は彼に本を1冊買ってあげた(てやった)。)

や、制作動詞を用いた

(122) 给他织了一件毛衣

(彼のためにセーターを1枚編んでやった)

(盧濤 2000:196)

あるいは“给・N+V+O”、“V+给・N+O”いずれの形式に用いられるかによって動詞の意味が変わる

(123) 我送给你一本书。

(本を一冊プレゼントする。)

(荒川 1985:16)

(123)’ 我给你送一本书。(本を一冊届ける。)

(同上)

のようなケースをみれば理解しやすい⁶⁶⁾。ちなみに、郭春貴 2001:370-371 が、

(124) 给他买一件衣服 (郭春貴 2001:370)

の“給”は介詞の「…のために」で、「彼のために買う」となり、「お金は彼が払って、私はただ替わりに買ってあげる」という意味であるのに対し、

(50) 买给他一件衣服

の“給”は補語で動詞の“买”と動補構造になり、「私がお金を出して、買ってプレゼントとしてあげる」の意味であるなどとした上で、「替わりに…してあげる」の時には介詞の“給”を、「…してあげる」の時には補語の“給”をそれぞれ用いるべきであるとしているのは、学習者の便宜を考慮して両形式の働きの傾向をわかりやすく説明するためのものであると推察される。“給・N+V+O”、“V+給・N+O”はいずれも受益を表わすことが可能な点において共通する一方、後者は「授与」を含意する傾向が強いと考えられることから、日本語の「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」表現との対応関係について考察を行なう際には、この点に着目する必要があるのではなかろうか。すなわち、“V+O+給・N”表現との対応関係の場合と同様に、“給・N+V+O”表現、“V+給・N+O”表現についても、対応する「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」表現における「アゲル(ヤル)/クレル」の動詞的性格の有無あるいは強弱を見極めつつ対応関係の傾向を探っていくのである。“給”の動詞としての性格がより強い“V+給・N+O”表現の場合の方が、“給・N+V+O”表現の場合に比べ、対応する日本語表現における「アゲル(ヤル)/クレル」の動詞的性格が強いと予測されるが、この点を含め、二つの対応パターンの比較を行なう価値はあろう。また、林立梅 2002:316、329 には、

(125) 小王给小陈买了一件礼物。

(林立梅 2002:316)

という中国語表現は

(125)’ 王さんは陳さんニプレゼントを買ってテアゲタ。(同上)

(125)” 王さんは陳さんニ代ワッテプレゼントを買ってテアゲタ。(同上)

のいずれの内容を表わすことも可能な多義表現であり、(125)’の内容を表わす場合においては、(“小陈”にあげるために)プレゼントを買ったがそれを“小陈”にあげたことを必ずしも含意しない点において、“小陈”がプレゼントを受けとったことを意味する

(126) 小王给了小陈一件礼物。

(王さんは陳さんにプレゼントをやった。)

(同上)

とは異なる旨の記述がみられる。(125)が二通りの内容に解される点は、(120)についての太田 1956 の前掲記述と同様であり、太田の表現を借りれば『プレゼントを買うということ』を“小陈”に与えた」となる。前述したように、“給・N+V+O”表現においては“給”がNに対する心理的方向性を帯びており、具象物の授与をとまうか否かにかかわらず同表現は成立する。このため、(125)は「プレゼントを買う」という出来事が実現したことを表わすにとどまり、プレゼントが“小陈”に届いたか否かには関心がはられていないとみるのが妥当であろう。一方、(126)における“給”は動詞(本動詞)であり、動作の実現は必然的にプレゼントの“小陈”への授与を意味する。この点は“給”の前に“送”を加えて“送给”としても同様であり、これは「動作の過程(働きかけ) — 結果」の意味関係を表わす“V給”の働きからくるものであると考えられる。上記のような特徴を有する(125)に対し、「N・ニ Oを Vテアゲル」形式をとる(125)’の場合はどうか。中国語動詞とは異なり、日本語動詞は動作の過程を表わすにとどまらず結果までを含意する⁶⁷⁾ため、(125)との間にも何らかの相違が存在しないであろうか。すなわち、(125)’の「アゲタ」が動詞としての性格をとどめているか否か、とどめているとすればプレゼントを“小陈”にあげた可能性は(125)の場合よりも高いか否か、というようなことである。これらに着目することにより、両言語の動詞にみられる意味構造の相違が、“給・N+V+O”表現、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」表

現の相違にどのように反映しているかが明らかとなる。

ところで、“**給・N+V+O**”表現における“**給**”が語彙的意味をとどめつつもその働きを拡張させ、受益者を示す成分から格関係表示のマーカ―へと変化していったことは早くから指摘されており、教育の場においてもこの点についての説明がなされることが多いと思われる。“**給**”が動作の相手、向かい先を示す働きを強めているケースにおいては、“**給・N+V+O**”表現に「**N・ニ Oを Vする**」表現を対応させることに対する抵抗感はあまりないと思われる。しかし、これまでに挙げた

(9) 王五**给**李四送一快糖。

／王五は李四**ニ**給を一つ贈った。

(12) 我**给**他写信。／私は彼**ニ**手紙を書く。

をはじめ、先行研究や辞書などに登場する“**給・N+V+O**”表現の日本語訳の中には、同表現についての記述に際して便宜的につけられたと思われるケースが含まれており、「**N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル**」、「**N・ニ Oを Vする**」の使い分けが正確に反映されているとは限らない。また、“**給・N+V+O**”表現において“**給**”が明確な受益の意味を有する場合であっても、受益を表わす働き、**N**が表わす事物を示す働きのいずれを優先させるかによって、「**N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル**」、「**N・ニ Oを Vする**」いずれの形式をとる日本語表現を対応させるかが左右されるケースも存在する。“**給・N+V+O**”表現、「**N・ニ Oを Vする**」表現の対応関係を考察することの必要性については成戸 2015 a :79-80 でも言及したが、“**V+給・N+O**”、“**V+O+給・N**”との使い分けや、“**給・N+V+O**”も含めた中国語の3形式がいかなる要因によって「**N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル**」、「**N・ニ Oを Vする**」との間に対応関係を成立させるかについて考察を行なうことにより、より広い視野の中で対象をとらえなおすことができよう。これによって、両言語の諸形式の働きについてのより厳密な記述も可能となるのである。

4 おわりに

以上、“**V+O+給・N**”とその類義形式である“**V+給・N+O**”、“**給・N+V+O**”との使い分

け、3形式に対応する日本語諸形式との対応関係を明らかにするための着眼点や分析方法、予測される結論について概観した。“**給・N**”を用いた他動詞表現に関する先行研究は膨大であり、様々な考察手法も提示されてきた。しかしながら、先行研究においては“**給・N+V+O**”、“**V+給・N+O**”の2形式を中心に論じられることが多く、考察方法も2形式の変換関係を取り上げるにとどまるものや、**V**の意味による分類を中心として両形式の使い分けを論じるものが少なくない。本稿では、これら2形式に加えて“**V+O+給・N**”を取り上げ、この形式を考察の中心にすえて上記の2形式との相違をみていくという方法を提示した。“**V+O+給・N**”の側から他の2形式をながめることにより、新たな視点からのより詳細な観察結果が得られると考えたためである。先行研究を検討する過程においては、“**V給**”において**V**、“**給**”のいずれに意味的な比重が置かれるかについて相反する二つの見方が存在するという事実や、授与動詞を用いた“**給・N+V+O**”が具象物の授与を表わすケースについての微妙な問題の存在も改めてうきぼりとなった。また、“**給・N**”を用いた他動詞表現からさらに視野を広め、上記の3形式を“**在・N**”を用いた他動詞表現と比較すれば、新たな知見が得られる可能性がある。周知のように、“**在・N**”の**N**にはトコロ(空間)を表わす成分を、“**給・N**”の**N**にはヒトを表わす成分を用いるのが本来の用法である。文頭、すなわち述語の外に置くことが可能であるのは前者であり、文頭に置かれることがまれな後者よりも機能語としての性格が強いとみることができよう⁶⁸⁾。さらに、本稿でとり上げた“**V+O+給・N**”形式が選択される要因を、“**V+O+在・N**”形式のそれと比較するのも無意味ではなく⁶⁹⁾、これらの切り口から“**在**”、“**給**”の働きを観察することにより、先行研究においてあまり注目されることのなかった両成分の特徴がうかび上がってくる可能性は高いと考えられる。

従来は正面からとり上げられることのなかった形式を考察の中心にすえるこのような手法は、成戸 2009 の第Ⅱ部第1～2章(存在表現に関するもの)や同3～5章(進行表現に関するもの)、同6章(動態表現に関するもの)で用いたものである。観察のポジションを変えることによって、先行研究では断片的にしかとり上げられなかった様々な現象の中に実に多くの重要なヒントが存在することが明白となったり、各形式の特徴がより鮮明にうかび上がることがしば

しばあった。このような手法は、中国語の表現と、それに対応する日本語表現とを見比べることがきつかけとなって生まれたものである。先行研究に丹念に目を通すことは言うまでもないが、先人の成果からさらに研究を進めるためには、新しい視点、新しい手法が不可欠である。

注

- 43) 成戸 2009 では第Ⅰ部第1～9章において前者の手法を、第Ⅱ部第1～2章において後者の手法をとり、同2014では第Ⅰ部第1章において前者の手法を、第2～8章および第9～11章において後者の手法をとった。
- 44) 石井 1987:59、待場 1990:44、森田 1990:289 には、「～**テ～スル**」においては一連の動きが対等の重みをもった別個のものとして表現される旨の記述がみられる。
- 45) ちなみに、複合動詞を用いた日本語表現が対応する“所以別说是电子游戏机，连电脑也买**给他**，让他们上补习班学画画儿或弹钢琴什么的。／だからテレビゲームはもちろん、マイコンも次々と**買イ与エ**たり、画やピアノの塾にも通わせたりとか…。(《日語口译教程》:226、324)”のようなケースも存在する。このようなケースについては、複合動詞と「～**テ～スル**」表現との相違をふまえた上での考察が必要となる。両者の相違については注44で挙げた石井 1987、待場 1990、森田 1990 を参照。
- 46) 岡部編著 1990:182 は、「彼は私に手紙をよこし**テクレタ**。」に対応するのは“他寄一封信**给我**。”ではなく“他**给我**寄一封信。”であるとしているが、これについては、動詞に後置される「**テアゲル(テヤル)／テクレル**」の影響による誤用を避けて学習者が“**給・N+V+O**”形式を選択できるようにするための便宜的なものであるという見方のほか、授与動詞である“寄”が用いられている点において(5)、(6)、(41)、(42)、(78)、(79)とは異なる可能性を前提に検討するという方法が考えられる。
- 47) 『日本語教育事典(「補助動詞」の項)』は、「ある動詞が他の動詞の後に付けて用いられ、これにある一定の文法的な意味を付け加える働きをする場合、それを補助動詞という」とした上で、1)前の動詞を「連用形+て」の形にするもの、2)前の動詞を連用形にするもの、の二通りがあり、1)の場合のみを補助動詞ということがあるとしている。補助動詞についてはさらに、『研究社 日本語教育事典(「授受動詞」の項)』、『日本語文法事典(「補助動詞」の項)』、『日本語学キーワード事典(「受給・受益の表現」の項)』を参照。
- 48) 楊凱榮 1994:29、39 および同 2009:1、4 には、待遇表現の一つとして受益を表わす「**テアゲル(テヤル)／テクレル**」と文法概念として受益を表わす“給”の相違についての記述がみられる。この点については、さらに佐治 1992:132-133、盧濤 2000:177、成戸 2015 a :79 を参照。
- 49) “**給・N**”とは異なり、「**テアゲル(テヤル)／テクレル**」は受益者を含まない表現に用いることも可能であり、含んでいたとしても「**ニ**」で示されるとは限らない。これらの点については盧濤 2000:199-200、『日本語学キーワード事典(「受給・受益の表現」の項)』を参照。
- 50) 例えば、「?男はガールフレンドと一緒に出かけるときは彼女**ニ**切符を買うべきである。(楊凱榮 2009:8)」は不自然であり、「お母さんが子供**ニ**ご飯を作る。(同上:3 を一部修正)」は「**テアゲル**」を用いた場合に比べると許容度がやや劣る。この点については成戸 2015 b :25-27 を参照。これに対し、木村 2012:225 には“小红**给**小王打／买了一件毛衣。”に対応する日本語表現として「シャオホンは王**くんニ**セーターを1枚編んだ／買った。」が挙げられている。
- 51) 表現構造の相違とは、「表現から統語構造の相違を取り除いてなお残る相違」を指す。この点については國廣 1974 a :48-49、同 1974 b :47-48、日中両言語の身体部分表現について述べた成戸 2009:195-196、日仏動詞の自他について述べた同 2014:344-346 を参照。
- 52) これらの点については太田 1956:185-186、朱德熙 1980 a :155、同 1980 b :173、奥津 1983:23、同 1984:73 などを参照。趙元任著／呂叔湘译 1979:162 は、“給”の有無が動作の方向と関わる動詞として“拿”、“租”、“借”、“分”があるとし、“借了我三块钱／借**给了**我三块钱”、“分我一点儿责任／分**给我**一点儿责任”という表現例を挙げている。李臨定著／宮田一郎訳 1993:269 には“我把书借同学了。(私は本を学友に貸しました。)”のような“把”を用いた表現例が挙げられている。
- 53) 朱德熙 1980 a :156 には、“张三借一本书**给**李四。”が“张三把他的书借**给**李四。”、“张三从别处借了一本书**给**李四。”のいずれを表わすことも可能である旨の記述がみられ、2.1 で挙げた(41)、(43)の場合と同様に、“**V+O+給・N**”表現の表わす出来事が一つか二つかの判断に際しては特に慎重さが求められるようである。
- 54) “**V給**”、「**Vテアゲル(テヤル)／テクレル**」と空間的方向性については、さらに井上 2011:44 を参照。ちなみに、佐々木 1994:323 には、中国語動詞がもつ「結果に対する関心の希薄さ」という性質が日本語の「買**っテヤル**」に相当する表現を成立にくくしている要因の一つである旨の記述がみられる。
- 55) これに対し、楊凱榮 2009:2 には“**V+給+名詞～**”構文

が授与だけを表わし受益を表わさない旨の記述が、盧濤 2000:63 には“张三送给他一本书。(張三は李四に本を1冊やった。)”における“給”が受益者ではなく受け手を示す旨の記述がそれぞれみられる。

- 56) “V給”の“給”を補助動詞「テアゲル(テヤル)／テクレル」に似た働きをする成分ととらえた記述が杉村 2000:64、佐々木 2006:181、井上 2011:38-39、41-42 にみられる。日本語における「接辞」については、『日本語教育事典(「語の成り立ち」の項)』、『日本語学キーワード事典(「接辞」の項)』、『日本語文法事典(「接辞」の項)』を参照。施关淦 1981:32-33 には、“我送给他一本书。”、“我送他一本书。”における“送”のように“給”の付加が任意である場合には“給”を助詞と位置づけることが妥当である旨の記述がみられ、“送(給)”における“給”の働きは“借(給)”の場合と同様に“加强给予语气的辅助作用”であるとされる一方、“給”の付加が不可欠である場合には助詞ではなく、“V給”の働きは“表示两个分离的过程”であり、“语义中心一般在‘给’上”とされている。このため、“V給”における“給”の働きについて一元的な見方をすることは避けた方がよさそうである。
- 57) この点については、注 22、荒川 1985:16、《漢日辞典(“給”の項)》、『中日大辞典(“給”の項)』などを参照。但し、《漢日辞典(“給”の項)》と『中日大辞典(“給”の項)』とでは、同一の動詞を用いた“V給”表現における“給”が任意か不可欠かの判断について相違がみられ、前者は“留给你一把钥匙(あなたに鍵を1個のこしておく)”の“給”を不可欠とするのに対し、後者は“留(給)你钥匙(かぎを残して置いてあげる)”の“給”は略すことができるとする。盧濤 1993:62、同 2000:181 は“給”を不可欠とする。“留”の語義については劉永耕 2005:133 を参照。太田 1956:183 は、授与動詞は“給”をとることもとらないこともあるが、二音節の動詞はとらないのに対して、一音節の動詞はとった方が口調がよいとし、張勤 1998:128 は、“V給”における“給”の省略について、年齢差、個人差、地域差、文体差があり、年配者、北方方言地域の人、文語体の場合は省略についてもっと緩いようであるとしている。
- 58) 杉村 2006:90 は「一般的傾向として、同じ意味で長短二形ある場合、長い方が短い方に比べより丁寧な表現になると言われている」としている。
- 59) 朱德熙 1980 a:160 には、“给予”という意味特徴を有する“卖”を用いた“我给他卖了一本”における“給”は前置詞(表示服务)と位置づけられるのに対し、“取得”という意味特徴を有する“买”を用いた“我给他买了一本”における“給”は動詞(表示给予)、前置詞(表示服务)の

いずれに解することも可能である旨の記述がみられる。

同様に、《外国人学汉语难点释疑》:83-84 には、“给他卖一件衣服”、“给他交五十块钱”は“給”が“替”の意味であれば成立するが、“卖给他一件衣服／卖一件衣服给他”、“交给他五十块钱／交五十块钱给他”の意味であれば成立しない旨の記述がみられる。この点については、さらに朱德熙 1982:171-172、盧濤 2000:196-197 を参照。林立梅 2006:274-275 は、モノの移動を含意するか否かによって“給・N+V+O”表現を区別している。ちなみに、佐々木 1994:316-317 は「朱德熙(1980 a)が指摘するように、中国語では二重目的語構文を構成する動詞、即ち三項動詞は、“給”受益文を構成することができない。かりにこれらの動詞を無理にこの形式にあてはめた場合、“給”が導く名詞句は授与の対象としての受益者ではなく、本来自分がすべき行為を代わりにしてもらった受益者としての解釈しか成り立たなくなる」として“？我给他卖了一辆汽车。(僕は彼に車を売ってやった。)”、“？我给他教汉语了。(僕は彼に中国語を教えてやった。)”を挙げている。この点については、さらに呂才楨・戴惠本・賈永芬著／荒屋勸編訳 1986:53 を参照。楊凱榮 1994:24 には、“还”のような三項動詞を用いた“我给他还钱。(私は彼に替わってお金を返す。)”のような表現例が挙げられている。

- 60) 張勤 1998:95 は、“V+給・N+O”においては“給”によって導入される間接目的語はいわば動詞の意味素性から要請されるものであるのに対し、“給・N+V+O”においては間接目的語は動詞の意味素性から要求されるものではなく、一つの事態を過不足なく表現するために取り付けられるものであるとしている。
- 61) 盧濤 1993:66-67、同 2000:192-195 には受益者のいくつかのパターンが示されている。
- 62) 注 36 を参照。ちなみに、楊凱榮 1994:32-34 には、“給・N+V+O”形式の受益構文が、恩恵の有無という点において中立的な日本語表現に相当する旨の記述がみられる。
- 63) このことは、朱德熙 1980 a:160 に、“我给他借了好几本书。”は“我替他出借了好几本书。”、“我替他从别人那里借了好几本书。”、“我从别人那里借了好几本书给他。”のいずれの内容を表わす表現として用いることも可能である旨の記述がみられることに端的にあらわれているといえる。 “給・N+V+O”表現が“替／为・N+V+O”表現などと同様の働きをする点については、さらに袁明军 1997:185-187、木村 2012:230-232 を参照。“給・N+V+O”表現における“給”とVの方向性については、杉村 2006:77 を参照。

- 64) 張伯江 1999:179-180 には“給予”の意味をさらにいくつかに分類した記述がみられる。3.3 の冒頭で述べたように、“給・N+V+O”表現には主として非授与動詞が用いられるため、授与動詞が“給・N+V+O”表現に用いられたケースのあつかいには慎重さが求められよう。例えば“送”を用いた場合、(9)、(31)、(121)は成立するとされるのに対し、注 37 で挙げた“*給我送了一本书(朱德熙 1982:172、盧濤 2000:196)”は不成立とされる点をどうみるかである。ちなみに盧濤は、同 2000:63 において“張三給李四送了一本书。(張三は李四に／李四に代わって本を 1 冊やった。)”を挙げている。佐々木 1994:317 は、“?我給他买了一辆汽车。”、“?我給他教汉语了。”(いずれも注 59 で挙げたもの)のようないわゆる三項動詞を用いた“給・N+V+O”表現においては“給”が授与の対象を導かないのに対し、同じく三項動詞の“送”を用いた場合は例外的に“給”が授与の対象を導くものの、方向補語“来／去”をとみななければならないとしている。
- 65) この点については、袁明军 1997:191、沈家煊 1999:100-101、盧濤 1993:65-66、同 2000:190-191、林立梅 2002: 318-319、杉村 2006:84、88、木村 2012:228-230 を参照。
- 66) (123)’と同様のケースについては杉村 2006:84 でもふれられている。一方、木村 2000:32 には、“我給他买了一本书。(私は彼に本を 1 冊買ってやった。)”、“給孩子打毛衣(子供にセーターを編んでやる)”のようにモノを獲得したり制作したりする行為を表わす動詞を用いた“給・N+V+O”表現における“給”もモノを授与する相手(モノの受け取り手)を示す働きをする旨の記述がみられる。ちなみに荒川 1985:16 は、“寄給他一个包裹”、“給他寄一个包裹”の“寄”は同じ意味であるとする。
- 67) この点については、成戸 2014:14-17 を参照。
- 68) “給・N”が文頭に位置しないという点については、張勤 1998:99-100、112-116、沈家煊 1999:95、98 を参照。
- 69) “V+O+給・N”、“V+O+在・N”については、范继淹 1982、沈家煊 1999 を参照。

引用文献

- 愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典(増訂第二版)』大修館書店(1987)。
- 荒川清秀 1985。「動詞(4) [動詞とその相手]」,『中国語』1985 年 10 月号,大修館書店, 14-16 頁。
- アン・Y・ハシモト著／中川正之・木村英樹訳『中国語学研究叢書 1 中国語の文法構造』, 白帝社(1986)。
- 石井正彦 1987。「複合動詞の成立条件」, 寺村秀夫・鈴木泰・

- 野田尚史・矢澤真人編集『ケーススタディ 日本文法』, おうふう(1998), 56-61 頁。
- 井出里咲子・任榮哲 2001。「人と人とを繋ぐもの — なぜ日本語に授受動詞が多いのか」,『言語』2001 年 4 月号, 42-45 頁。
- 井上優 2011。「日本語・韓国語・中国語の『動詞+授受動詞』」,『日本語学』2011 年 9 月号, 38-48 頁。
- 王占華・一木達彦・苞山武義編著『中国語学概論[改訂版]』, 駿河台出版社(2006)。
- 太田辰夫 1956。「『給』について」,『神戸外大論叢』第 7 巻第 1~3 号, 神戸市外国語大学研究所, 177-197 頁。
- 岡部謙治編著『この中国語はなぜ誤りか』, 光生館(1990)。
- 奥津敬一郎 1983。「授受表現の対照研究 — 日・朝・中・英の比較 — 」,『日本語学』1983 年 4 月号, 明治書院, 22-30 頁。
- 奥津敬一郎 1984。「授受動詞文の構造 — 日本語・中国語対照研究の試み — 」,『金田一春彦博士古稀記念論文集第二巻 言語学編』, 三省堂, 65-88 頁。
- 郭春貴 2001。『誤用から学ぶ中国語 — 基礎から応用まで — 』, 白帝社。
- 木村英樹 2000。「“給”が使えない『ために』」,『中国語』2000 年 10 月号, 内山書店, 32 頁。
- 木村英樹 2012。「北京官話授与動詞“給”の文法化」,『中国語文法の意味とカタチ — 「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究 — 』, 白帝社, 214-236 頁。
- 國廣哲彌 1974 a。「人間中心と状況中心 — 日英語表現構造の比較 — 」,『英語青年』1974 年 2 月, 研究社, 48-50 頁。
- 國廣哲彌 1974 b。「日英語表現体系の比較」,『言語生活』1974 年 3 月, 筑摩書房, 46-52 頁。
- 倉石武四郎・折敷瀬興編『岩波 日中辞典』, 岩波書店(1983)。
- 小池清治・小林賢次・細川英雄・犬飼隆編集『日本語学キーワード事典』, 朝倉書店(1997)。
- 奥水優 1985。『中国語の語法の話 — 中国語文法概論』, 光生館。
- 近藤安月子・小森和子編『研究社 日本語教育事典』, 研究社(2012)。
- 佐々木勲人 1994。「中国語の受益文」,『言語文化論集』第 38 号, 筑波大学現代語・現代文化学系, 315-325 頁。
- 佐々木勲人 2006。「中国語における使役と受益 — 比較方言文法の観点から — 」,『事象と言語形式(新装版)』, 三修社, 177-197 頁。
- 佐治圭三 1992。『外国人が間違えやすい 日本語の表現の研究』, ひつじ書房。
- 朱德熙著／松村文芳・杉村博文訳「動詞“給”にかかわる統語論的問題」,『中国語学研究叢書 4 現代中国語文法研

究』, 白帝社(1988), 195-217 頁。

杉村博文2000. 「“給”の意味と用法」, 『中国語』2000年2月号, 内山書店, 64-66頁。

杉村博文 2001. 「目上の人に“送你”は失礼?」, 『中国語』2001年8月号, 内山書店, 66 頁。

杉村博文 2006. 「中国語授与構文のシンタクス」, 『大阪外国語大学論集』第35号, 65-96 頁。

高橋弥守彦・姜林森・金満生・朱春躍編著『中国語虚詞類義語用例辞典』, 白帝社(1995)。

張勤 1998. 『給』の素描」, 『中京大学教養論叢』第39巻第3号, 中京大学教養部, 91-128 頁。

中川正之 1978. 「中国語の『有・在』と日本語の『ある・いる』の対照研究(上)」, 日本語と中国語対照研究会編『日本語と中国語の対照研究』第3号, 1-10 頁。

成戸浩嗣 2009. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』, 好文出版。

成戸浩嗣 2014. 『日中・日仏対照研究』, 好文出版。

成戸浩嗣 2015 a. 「日中対照研究方法論(1) — “給・N+V” 表現と『N・格助詞』を用いた日本語動詞表現(上) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第3巻第2号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 77-86 頁。

成戸浩嗣 2015 b. 「日中対照研究方法論(1) — “給・N+V” 表現と『N・格助詞』を用いた日本語動詞表現(下) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第4巻第1号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 21-30 頁。

日本語教育学会編『日本語教育事典』, 大修館書店(縮刷版1987)。

日本語文法学会編『日本語文法事典』, 大修館書店(2014)。

待場裕子 1990. 「日中の複合動詞の対照研究(一) — 中国語の『動詞+結果補語』構造の場合」, 『流通科学大学論集 — 人文・自然編 —』第2巻第2号, 41-60 頁。

森田良行 1990. 『日本語学と日本語教育』, 凡人社。

楊凱栄 1994. 「受益表現について — “給”と『てあげる、てくれる』との比較を中心に —」, 『教養研究』第1巻第1号, 九州国際大学教養学会, 21-42 頁。

楊凱栄 2009. 「中日受益表現と所有構造の対照研究」, 『日中言語研究と日本語教育』第2号, 好文出版, 1-12 頁。

李臨定著/宮田一郎訳『中国語文法概論』, 光生館(1993)。

呂才楨・戴惠本・賈永芬著/荒屋勸編訳『日本人の誤りやすい中国語表現300例』, 光生館(1986)。

林立梅 2002. 「中国語“X 給 Y V(N)”の構文的意味」, 『言語情報科学研究』第7号, 東京大学言語情報科学研究会, 315-332 頁。

林立梅 2006. 「“X 給 Y V P” 構文のカテゴリー形成についての一考察」, 『中国語学』第253号, 日本中国語学会, 274-293

頁。

盧濤 1993. 「『給』の機能語化について」, 『中国語学』第240号, 日本中国語学会, 60-69 頁。

盧濤 2000. 『中国語における「空間動詞」の文法化研究 — 日本語と英語との関連で —』, 白帝社。

范继淹 1982. <论介词短语“在+处所”>, 《语言研究》1982年第1期, 华中工学院出版社, 71-86 頁。

吉林大学汉日词典编辑部《漢日辞典》, 吉林人民出版社(1982)。

刘永耕 2005. <动词“给”语法化过程的义素传承及相关问题>, 《中国语文》2005年第2期, 商务印书馆, 130-138 頁。

沈家煊 1999. <“在”字句和“给”字句>, 《中国语文》1999年第2期, 94-102 頁。

施关淦 1981. <“给”的词性及与此相关的某些语法现象>, 《语文研究》1981年第2期, 山西省社会科学院, 31-38 頁。

苏琦编著《日语口译教程》, 商务印书馆(2版2000)。

叶盼云・吴中伟编著《外国人学汉语难点释疑》, 北京语言文化大学出版社(1999)。

袁明军 1997. <与“给”字句相关的句法语义问题>, 南开大学中文系《语言研究论丛》编委会编《语言研究论丛》第七辑, 语文出版社, 181-193 頁。

张伯江 1999. <现代汉语的双及物结构式>, 《中国语文》1999年第3期, 商务印书馆, 175-184 頁。

赵元任著/吕叔湘译《汉语口语语法》, 商务印书馆(1979)。

朱德熙 1980 a. <与动词“给”相关的句法问题>, 《现代汉语语法研究》, 商务印书馆, 151-168 頁。(原载《方言》1979年第2期)

朱德熙 1980 b. <汉语句法中的歧义现象>, 《现代汉语语法研究》, 商务印书馆, 169-192 頁。(原载《中国语文》1980年第2期)

朱德熙 1982. 《语法讲义》, 商务印书馆。

用例出典

《茶馆》, 北京电影制片厂脚本。

(原稿受理年月日 2017 年 6 月 12 日)